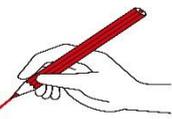


Move Mountains

5年生通信

4月18日8号



○「何のために学校へ通っていますか」

授業の冒頭、問いました。

算数の時間、自分で時間を活用して粘り強く取り組む時間ですが、残り10分。雰囲気か崩れていました。

学級の時間、4年生を振り返り、5年生の目標を立てるシートの提出が時間内にできたのは5名でした。鉛筆すらもたず、だるい、やりたくないオーラ全開の子が数名いました。だから、上記のように問うたのです。

- ・学校へ来た時よりも賢くなるため
- ・大人になって困らないように勉強するため
- ・チームワークを学ぶため
- ・人として大切なことを学ぶ

次々と出てきます。

SOLANに通う子たちは、さらに上位の、SOLANならではの目標をもってほしいと思います。

学校の一丁目一番地。『グローバルシチズンシップの育成』。その理念に基づいて私たちも教育活動を展開しますし、みなさんも進むべき方向です。

グローバルシチズンシップの育成

これは、瀬戸SOLAN小学校の建学の精神でもあります。

これからの社会は予測困難な社会と言われています。テクノロジーの急速な発展により、国や地域を超えて世界規模で社会的・経済的な結びつきが深まるグローバル化が進んでいます。そして同時に、世界中の国々が新型コロナ問題をはじめ、貧困問題、環境問題など様々な問題を抱えています。これらの問題を解決するには、これらを他人事としてではなく、世界の一市民として自分に関わりのある問題として捉え、多様な立場の人々と協働して、よりよく解決するための方法を考え、持続可能な社会を創るために自ら行動する志と考える力の確かな育成が重要です。

そのためには「ことば (Language) の力」が必要です。母国語である日本語を正しく、豊かに使いこなすことはもちろん、国際語である英語も抵抗なく使いこなす力を身につけることで、問題を確かに、多面的に捉えることができます。そのため、全教室に日本人教師と外国人教師を配し、日本語環境と英語環境を整え、豊かに考え、表現する場をつくりだします。また、文科省のカリキュラム特例により1年生から英語の授業を実施すると共に、音楽や図工、体育、生活科などの活動中心の授業は、基本的には英語で進めるようにします。

簡単に言えば「正解のない世界で、活躍する日本人を育てる」。

環境問題、貧困、感染症など正解のない問いに正対し、取り組んでいくのです。

算数のように**正解のある問いに粘り強く取り組む**というのは、その練習です。正解のある問いを解くことで「これくらい練習をして、このように取り組めば道筋が見えてくる」ことを体感するのです。

自分の生活、^{しんちよく}進捗状況を**振り返り**（内省すると言います）先のことを見据えて**目標を設定して課題解決に向かう**のは、正解のない問いへ向かうときの基本姿勢です。

「未来のことは分からない」だからこそ、道しるべを立て、進むべき方向を明確にするのです。

まずは、目の前の課題に取り組む。

とりあえずやってみる。

分からなければ聞く。

できないことはできないと言う。ただし、できる範囲や選択肢を考える。

難易度が高すぎたり、量が多すぎたりしたら意見を言う。

時間内に無理そうなら、締め切りを延ばしてもらおう。

全員ではありませんが、「やらない、逃げる、諦める」よくない雰囲気を感じたので話をしました。

帰りの会での Sam 先生の例え話、私はとても納得して聞いていました。

「ドッチボールをしていたとする。ボールをキャッチして、そのボールを抱えてどこかへ走り去ったら、ドッチボールをしている人たちは楽しいだろうか？」

その場で、やるべきことがあります。

自由と自分勝手は違います。